

## グローバル化と大学生協の課題

大学生協連会長理事 庄司興吉

皆さん今日は。大学生協連会長理事の庄司です。

今回の「全国教職員セミナー2008」には、何よりもまず開催校として新潟大学がご協力くださいました。下條学長先生を初めとする皆さんに、心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。それから、今回のセミナーのために、富田委員長を初めとする全国教職員委員会の皆さんが、非常に熱心にプランを練ってくださり、セミナーが実現しました。また、現地の新潟大学で、教職員委員会と協力しながら今回の会議を準備してくださり、実行に当たっていただいている栗生田先生をはじめとする現地実行委員会の皆様にも、心からお礼を申し上げます。

4年に一度の機会ですので、この2日間、皆さんぜひ、いろいろと率直なご意見をかわされ、実りある交流をしていただきたいと思います。私からは一言、「グローバル化と大学生協の課題」について、ご挨拶させていただきます。

### グローバル化と電子情報技術の発展

私は社会学が専門で、マクロ社会学、すなわち現代社会論、国際社会論、地球社会論などを専門にしております。その関係でここ数十年、グローバル化について考えてきました。いろいろな機会に申し上げておりますが、私の考え方では、グローバル化とは、地球的規模で市場化と情報化と電子化あるいはコンピュータ化が重なって進行することで、つづめれば電子情報市場化といってよい過程だと思います。

地球的規模の市場化は、すでに500年前の大航海時代に始まりました。そして、250年前にイギリスから始まった産業革命をつうじて本格的に進行し始めました。平行して、印刷技術と紙媒体による情報化が進みます。19世紀に入り、電気の科学が発展し、電気技術を、情報通信すなわちコミュニケーションに応用する動きが始まりました。モールス信号のようなものに始まり、19世紀の後半には電話が発明されます。その電話を不特定多数の人びとにたいしていっせいに流すとラジオになるわけですが、それが実用化されたのは20世紀に入ってからのことです。アメリカの1920年の大統領選挙のときに、当選したハーディングが挨拶をしたのが、ラジオ放送の始まりだったとされています。

その後、音声だけではなくて映像もいっしょに流す試みが続けられ、皆さんご存じのように、第二次世界大戦後、テレビが急速に普及しました。新聞、ラジオに加えて、マスコミの主流がテレビとなります。さらに、第二次大戦中に開発が始まった電子技術がコンピュータの開発につながり、それが実用化されるとともに小型化され、ネットワーク化されて、コミュニケーションに応用されるという過程が急速に進みました。その結果、20世紀の終わりになって、地球上の全域を瞬時にカバーするようなコミュニケーション・ネッ

トワークが出てきたわけです。そのような状況のなかに今、私たちはいる。このわずか 20 年ほどのあいだの発展です。

### 社会主義の失敗と地球的規模の市場化

このような技術的発展に、「新しい社会をつくる」といっていた 20 世紀の社会主義は、事実上ついていけませんでした。中国はすでに 1978 年に、文化大革命という混乱を収束し、いわゆる改革開放に踏み切っていました。その後、ソ連はペレストロイカすなわち改革を試みるわけですが、結果として成功せず、1989 年から 91 年にかけて、ソ連および東欧の社会システムは崩壊してしまうことになりました。このような 20 世紀社会主義の資本主義市場への屈服が、私のいうグローバル化を決定的なものにしたことは明らかです。その意味で私は、狭い意味でのグローバル化は 1991 年以降のことだと主張してきました。

これ以降の地球的規模の市場化はすさまじいものです。アメリカの社会学者で、国際社会学会の副会長であるマイケル・ブラウオイのアイデアを借りながらいうと、産業革命をつうじて商品化されたのは労働力でした。20 世紀に入って、いわゆる金本位制が崩れ、主要資本主義国が管理通貨制度に移行し、修正資本主義のもとで貨幣が商品化されます。さらに第二次世界大戦後、資本主義国を中心に地球全域の開発が進められ、1970 年代以降、自然環境と人間身体そのものが商品化されてきました。地球的規模の環境だけでなく、われわれの心身、つまり内臓が商品化されたり、われわれのアイデアとか心情までが商品化されるような事態になってきているのです。もはや市場経済の外側にあるものは何もないのではないかと、といわれるような状態です。

### 人間を取り戻すために生活を協同する

こうしてわれわれは不断に商品化され続けているわけですが、そうでありながらそれを超えて、市場経済を制御する人間を取り戻せるかという、人類史的にも大きな問題に今直面しています。それを考えるさいに私はあらためて、社会を支配する力は、必ず同時にそれを越える諸力を生み出していく、と考える。そういう発想をし続ける。それが、人間が人間であり続けるためのアイデンティティーであるということを強調したいと思います。つまり人間は、たえず社会につくられながら、それを超えて自分および自分をつくっている社会をつくりかえていく、という発想をし続けることです。

そのような観点から私が今非常に大切だと思っているのは、生活を取り戻すために協同することです。すさまじい商品化のなかで人間的な生活を取り戻すために、生活のために必要なものを自分たち自身で供給する。本当にグローバルな市場化の時代ですから、地球的規模の市場を流れているものをある程度は仕入れざるをえません。しかしそれでもできることはたくさんあり、生協がやってきた産直とか、地産地消とかは、やろうと思えばある範囲では必ずできます。フードマイレージという言葉がはやっていますが、それだけを絶対視せず、誰がどこでつくっているのか分かるような、生産と流通の過程が見えるものの供給を増やしていくということも大切です。

地産地消といっても狭い地域に限定せず、例えば途上国の人びとが頑張っているものをつくっていれば、その人たちのものを少し高くても買ってあげるということも重要でしょう。いわゆるフェアトレードで、イギリスの生活協同組合は一時衰退してしまったものの、

このような途上諸国などとの交流をつうじて復活してきているといわれています。この点は日本の生協はまだいたへん弱いので、日生協などにも私は申し上げているのですが、できることはやっていかなければならないでしょう。各大学生協でも、産直や地産地消を進めると同時に、それを地域的に狭く限定せず、場合によっては国境を超えてでも広げていく必要があるのです。

### 事業を目的とする結社としての生協

生協は、ご存じのように、第一に生活者としての人間の自発的結社 **association** です。しかし第二に、結社の目的からすれば、生活手段を供給するための事業 **enterprise** でもあります。そのために、大学生協は、学生、院生、教職員でつくるものですが、それぞれが勉強や研究や事務などの仕事を持っていますので、生協の仕事を専門にやってくれる生協職員を雇って、日常の業務をしてもらうことになる。そこで、生協職員主導になると、ほかの企業と変わらない **enterprise** のような面も出てきます。そのように受け取られている大学生協がかなりある。だから、ほかの業者と同じレベルに並べて比較してみて、「生協より他の業者のほうがいいではないか」というようにみられることも、少なくないのです。

しかし、本来はそうではないので、生協という **enterprise** はそれを始めた元の **association** があり、これは、大学の場合には、そこで生活する学生、院生、教職員が自分たちの生活に必要なものと日ごろの勉強、研究、その他に必要なものを自分たちで供給する目的でつくったわけですから、それをやることの意義をたえず考えていく。そして、**association** が **enterprise** を日常的にチェックしていかないといけない。どの大学の生協も、1年に1回は総会を開き、理事会あるいは学生委員会、教職員委員会などが日常的に活動しているはずです。活動しているかどうかを、もう一度それぞれの生協で確かめてください。

教職員セミナーは、前回 2004 年のときに、教職員がそれぞれ自分の専門性を生かして、大学生協の活動にもっと貢献できないだろうかという問題提起をし、呼びかけました。それから 4 年たって、この間に大学も国立、公立の多くが法人化されて、非常に大変な状態になってきた。「大学淘汰時代」という言葉がテーマに出てきますが、そのような状況のなかで、大学を盛り立てていく。そのために、生協ができることはないだろうかともっと積極的に考えていく、それが今回のテーマです。

### 電子情報市場化の積極的逆用

最初に、グローバル化は電子情報市場化だと申し上げました。それがいやがおうでも進みますので、それに乗りながら生協の良さを出していく以外にありません。だから電子情報化を、私たちはもっともっと積極的に利用していかなくてはいけないと思います。先生方の専門でいいますと、コンピュータのことを専門にやっていらっしゃる方が各大学にいらっしゃるし、もっと広く、今はコンピュータを使わずに研究や教育をやるのは事実上不可能になってきていますので、それについていろいろな経験を蓄積してきていらっしゃる先生方が多いはず。それらの知識や経験を、もっともっと大学生協の活動に結びつけていってください。

生協がたんなる **enterprise** におちいらず、**association** による規制を忘れなければ、グ

ローバル化への下からの無数の対抗力になります。グローバル化のなか、地球規模の市場化のなかでも、産直や地産地消やフェアトレードなどをやりながら、電子情報技術を使っていくらかでも独自性も出していくことができるのです。グローバルなマーケットに生協という協同組合が絡んでいけば、長い眼で見ると、グローバルなマーケットの質を下から変えてくことにもなるでしょう。そのためにも、電子情報化をもっともっと積極的に活用していかななくてはいけないのです。

生協がホームページをどれだけ利用しているかという、まだまだだと思います。大学生協のホームページも、いつも同じようでありあまり変わり映えがしない。ホームページを開くと、大学生協が日々どのようなことをやっているのか、生き生きと分かるように変えていかななくてはいけないのではないのでしょうか。

### **ホームページその他の積極的活用を！**

日本の大学生協は非常にユニークで、アジア諸国の大学で生協づくりが進むなか影響力が出てきています。私は強く大学生協連のスタッフに働きかけ、英語のページをつくってもらいました。この春から始動しています。ぜひ皆さんご覧いただき、お気づきのことがあったら、私なり、大学生協連の職員なりにお伝えください。

また例えば、私は、7月の全国理事会で、パワーポイントを使い「協同を協同『する』こと」という話をさせていただきました。その話の内容は、今回のセミナーノートにも収められています。私がいろいろな機会に話したことのほとんどが収められているページに、大学生協連のホームページからアクセスできることをご存じでしょうか。大学生協連のホームページに「会長からのご挨拶」というアイコンがあり、それをクリックしていただくと私の挨拶が出てきます。そこに「会長のページ」にリンクできる箇所があって、そこをクリックすると、私が大学生協連関係でいろいろな機会に話したものを集めたページにアクセスできます。

こういうものをどんどんご覧いただき、もしご批判なりご意見などがありましたら、ぜひおっしゃってください。私もこのようにして、電子情報化を、大学生協連の発展のために積極的に利用しようとしてきております。どうぞ皆さんのところでも、ぜひもっと意欲的にコンピュータ・ネットワークを活用し、大学生協連の活動を生き生きと内外に伝え、それをつうじて大学生協の活動を活発化していってください。

### **共済の分離と連帯のあり方の効率化という課題**

現在大学生協は二つの大きな問題に直面しています。その一つは、生協法の改正にともない共済を分離しなくてはならないこと。もう一つは、大学生協間の連帯のあり方にかんするもので、連合のあり方にまだまだロスが多く、お金がかかっているわりに効率が悪いのを何とかしなくてはならないことです。この面を早くすっきりさせ、最小のコストで最大の連帯あるいは連合ができるよう、考えていかななくてはなりません。そのためにも、皆さんのあいだで前向きに議論し、電子情報化の利用も含めて有効な手を打っていかねばならないのです。

共済を分離しながら、各大学生協が組織的にも財政的にもよい意味での自立性を強め、そのうえに自発的で効率的な連合の組織をつくりだしていくことが、今もっとも重要な課

題になってきています。そのことを、このセミナーをつうじて、ぜひ積極的に議論してください。

### 世界に誇りうる日本の大学生協のユニークさ

これまでなんとか申し上げてきましたが、日本の大学生協は、大学のキャンパスで、学生院生の支援だけではなくて、教職員の生活と教育研究をも支えてきています。そのやり方を客観視するため、世界の他の諸国の例をここ数十年以上にわたっていろいろ見てきました。

その結果から言いますと、例えばヨーロッパでは、国によってかなりの違いがありますが、主要国であるドイツやフランスには、DSW とか CNOUS とか、大学における学生支援を専門にやる準政府機関があり、それらが寮、食堂、奨学金などを一手に引き受ける形になっています。これと対照的にアメリカでは、大学それ自体が事業であるという意識が強いのか、大学が直接寮を運営し、食堂を運営し、また、民間にもたくさんある奨学金の斡旋などもおこなっています。

それらと比較すると、日本では、大学生協が、奨学金は別ですが、食堂から、書籍、文房具、コンピュータ、旅行、さらには住宅問題なども手がけている。そのうえ、運転免許取得の斡旋や、英語とか公務員などのための講座もやってきています。非常に多様な形で学生支援をやっているだけでなく、教職員の生活、教育、研究などの支援もやってきている。国立大学の 70%以上、私立大学の 30%でそうなのです。先ほど新潟大学の学長先生にも言及していただきましたが、220 の大学生協が全国で 150 万人近くの組合員を擁して活動している。これだけ大きな規模で大学生活の支援をしているケースは、世界にも例がありません。この意味で日本の大学生協は、歴史的に見ても 60 年以上も続く、たいへんユニークな協同組合なのです。

### アジアのモデルになれるよう前向きに議論と実践を！

それが今、ポストコロニアル・アジア、つまり革命後の混乱や開発独裁の時期を乗り越え、本当に自分たちの国づくり社会づくりにいそしんでいるアジアの諸国から注目されているのです。社会がこのような状態に入ると、教育制度が非常に大切な意味を持てきます。そして、大学はその教育制度の最上部に位置する機関なわけですから、そこをどう支援していくかが大きな問題になり、その意味で、日本の大学生協がアジアのモデルになる事態になってきているのです。

良い意味でのモデルになれるように、われわれ大学生協も、先ほど挙げたような内部の組織問題、連合形態の整備の問題などを、うまく解決していかなければなりません。そのために、柔軟な発想、機能的で柔軟な思考を維持しながら、もともと大学とは何であるのか、大学生協は何をどう支援したらいいのか、理念を大事にしながら考えていかなければならないでしょう。

このあとパネルディスカッションや分科会などはそのために企画されたものです。どうか皆さん、大いに前向きにご討議いただいて良い成果を上げていただきたいと思います。そして、4年に一度の教職員セミナーの成果を全国に広めていきましょう。

以上をもって、私の挨拶とさせていただきます。どうも有り難うございました。

た。

(081130, ヴェトナム・ホーチミンの空港にて手直し済み)